

<点検> (評価内容) 一覧

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」より  
令和3年度 自己点検・自己評価

評価基準 :  
・よく当てはまる : ◯ ・大体当てはまる : 2 ・当てはまらない

令和3年度					
I	教育理念・教育目的	担当	評価点	評価	改善点・対策
1-1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	貴島・出口	3	・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページに掲載している。また、各教室にも掲示をして学生への浸透を図っている。 ・新入生を対象にした研修で、教育理念・教育目的・教育目標・校訓をもとにしたシンボルマーク作成を取り入れている。 ・学校教育法、教育基本法、指定規則の要件に沿って運営している。 ・教育内容・教育方法を載せた授業計画(書式)の統一化を検討している。令和5年度 ・履修要覧に反映させる予定である。 ・教育環境として、教員については学	・令和5年度履修要覧に授業計画も添付する。授業計画の書式は統一したものを使用する。 ・母体病院以外の医療機関や施設にも卒業生に対する評価を依頼し、教育上の課題を明確にしていく。
1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。		3		
2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		3		
2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		3		
3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。		3		
3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。		3		
3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。		3		
4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。		3		
4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。		3		
5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。		3		
5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに必要なものとなっている。		3		
令和3年度					
II	教育目標	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	貴島・出口	3	・教育目標は、教育理念・教育目的と一貫している。また、教育内容を網羅している。 ・第5次カリキュラム改正に伴い、ディプロマポリシーを設定し、カリキュラムツリーで科目の関連性や進捗を検討した。2年課程は令和5年度から施行となる。 ・教育目標の内容は卒業時の到達レベルに相応している。	
2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		3		
2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		3		
3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		3		
3-2	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。		3		
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。		3		
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3			
令和3年度					
III	教育課程経営	担当	評価点	評価	改善点・対策
<教育課程経営者の活動>		玉利・中園・中原	3	・現行カリキュラム施行後から教職員の入れ替わりがあるが、学生便覧や校内内規・教務便覧によって周知され一貫された活動が行われている。 ・令和5年度より新カリキュラムが施行されるが、現行カリキュラムの評価を行い、当校の課題を見出し、カリキュラム編成ガイドラインを基に編成することができた。 ・今後は、科目・単元について詳細を検討し、シラバスを作成する予定である。 ・自己評価委員会規定には自己点検・評価の方法を明記しているが、学生便覧には学生が他者評価を行うことが記載されていない。	・第5次カリキュラム改正の施行に向けて、教職員全体で内容理解と一貫した運用について周知を図る。 ・新カリキュラムのシラバスを作成する。 ・学生に自己点検・自己評価に授業アンケート結果が反映されることを意識してもらうために明文化を検討する。
1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。				
1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。				
<教育課程経営者の活動>					
1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。				
1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。				
1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。				
<科目、単元構成>					
1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。				
1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。				
1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。				
2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である				
2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。				
<教育計画>					
1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。				
1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。				
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。				
<教育課程評価の体系>					
1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。				
1-2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。				
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。				
3-1	教育課程を評価する体系を整えている。				
3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。				
<教員の教育・研究活動の充実>					
1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。				
1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。				
2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。				
2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。				
<学生の看護実践体験の保障>					
1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	3	・各実習要項を通じて教育目的や目標を説明し、理解していただいている。 ・臨地指導者の大まかな役割は要項説明の際に依頼している。しかし、新型コロナウイルス流行中の受け入れて臨床の状況にも左右されるため、詳細は指導教員との打ち合わせのもと随時役割を担ってもらっている。 ・受け持ち対象については個人情報保護の誓約書を提出し、受け持ち時の同意書、同意を得た旨を記録に残し、了承を得て受け持っている。実習の学習の中で倫理的関わりや人権の尊重を指導している。 ・ヒヤリハット、事故報告書の提出を受けて分析、フィードバックし安全教育に繋げている。	・新型コロナウイルス流行中の受け入れで臨床の状況にも左右されるため、連携を密に図っていく必要がある。	
1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。				
2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。				
2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。				
2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。				
3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。				
3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基いて、学生への指導を計画的に行っている。				
4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。				
4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。				

令和3年度					
IV	教授・学習・評価過程	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<授業内容と教育過程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の関連と発展>	児玉・東園・中原・山田			
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。		3	・昨年度と評価は変わらない。但し、授業内容間の重複や整合性、発展性については、第5次カリキュラム改正に向けてのカリキュラム評価で重複部分を話し合うことができた。	・令和5年度より第5次カリキュラムが実施される。科目間で調整した内容で授業内容を検討していく。 ・領域横断科目の教育内容と授業計画の調整を行う必要がある。
2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。		3		
2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。		3		
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。		3		
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。		2		
	<授業の展開過程>				
1	授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。		3	・学生便覧、履修要覧、授業開始時に計画を明示して実践している。学生の学習深化や発展については、グループワークやロールプレイだけでなく、課題提示と学生主体の学習、それを活用したシミュレーション教育を始めている。 ・実習においては、事前学習を早くから始められるように、1年次の夏休み前に課題を配布し計画的に学習できるよう工夫している。	・臨床判断能力を育むための教育方法を検討する。
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		3		
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		3		
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	3			
	<目標達成の評価とフィードバック>				
1-1	評価計画を立案し、実施している。	3	・授業や実習は学生からの他者評価を実施している。それに加えて、学生たちが技術到達評価を自主的に行った結果や、卒業前に「卒業時に到達すべき目標」の学生評価をさせた結果を用いて、教育活動の評価を行っている。 ・単位認定の評価基準や公平性については、統一した評価基準や会議での教員同士の情報共有が行われている。		
1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	3			
2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	3			
2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	3			
3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3			
3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	3			
	<学習への動機づけと支援>				
1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	・入学時に、学生便覧と履修要覧（シラバス）は1冊にして、学生個々に渡し内容を説明している。また、授業開始時にもシラバスを用いて、実習を行っている。 ・学習への動機づけ・支援については、PC室や図書室の開放だけでなく、実習にむけて事前学習できるよう早期（1年次夏休み）に課題を提示している。	・シラバスの様式の変更を検討しているが、次年度は例年通りの形でいく。令和5年度以降のシラバスについて検討していく。	
1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3			

令和3年度					
V	経営・管理過程	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<設置者の意思・指針>	貴島・橋元			
1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。		3	・第5次カリキュラム改正に伴い、教員全員で現行カリキュラムの課題を見出した。 ・中長期計画の評価について教員会議で取り上げ共通理解を図り、次年度の計画に反映させた。	
1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。		3		
1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。		3		
1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。		3		
1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。		3		
1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。		3		
	<組織体制>				
1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。		3	・権限や役割機能について、校務分掌や組織図で明確にしている。 ・意思決定システムについては、校務分掌上でリーダーを決めており、教員会議・実習会議・職員会議で職員の意見を反映している。	
1-2	意思決定システムが明確になっている。		3		
1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3			
1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3			
2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			
2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			
	<財政基盤>				
1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3	・財政基盤の考え方は、前年度の収支と今年度の予算をもとに職員会議で共通理解を図っている。 ・長期計画をもとに、今年度は新しくモデル人形を更新し教育の維持・向上につなげた。		
1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	3			
2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	3			
2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	3			
	<施設設備の整備>	出口・玉利・中園			
1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。		3	・本校の中長期計画に設備、備品の整備は含まれている。今年度多様な学生に対応できるよう、全館トイレ改修を実施した。 ・学内実習に対応できるよう新生児バイタルサイン模型人形、分娩助産シミュレータ、万能型看護実習モデルハ重を買入れ替え、導線セット2つを追加購入をした。鹿児島県看護協会実習補完事業より「シナリオ」を借用した。毎年、教育に必要な備品等は点検を行い整備している。 ・年2回学習環境調査を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、授業に参加できなかった学生相談窓口を設置し、相談内容によって、学年担当・進路担当・カウンセラーが対応している。 ・科目履修生に対しても単位取得へ向けて継続的に支援している。 ・奨学金制度について、全学生に対して案内を行い、経済的な支援体制を整えている。 ・地域交流会やボランティア活動など、学生の社会活動参加を積極的に促し、体制を整えている。 ・学習困難者に対しては面接を行い、個人課題を与え学力向上に努めている。 ・卒業後の進路についても、学年担当が面接を行い、病院内や面接練習を実施している。	・備品に関しては、新カリキュラムに向けて、指定規則に沿って整備し、長年使用していない備品については、整理する必要がある。 ・学生の通信環境は入学までに整えるよう指定されていないため、新型コロナウイルスの変異株によっては、今後学生全員に対してリモート授業が必要になる可能性もある。
1-2	管理者の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している。		3		
2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。		3		
2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。		3		
3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。		3		
3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		3		
	<学生生活の支援>				
1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3		・悩みを抱えている学生が増加しているため、家族と連携し、教職員全員で情報共有しサポートしていく必要がある。	
1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3			
1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3			
	<養成所に関する情報提供>	橋元・大川内・山田			
1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。		2	・入学ORで保護者へのORも行っているが全員参加ではない。成績表発送は第1保証人へ行って情報提供している。また、単位に関わる学生に関しては本人の了承のもと、保護者・委託病院への情報提供を行っている。Instagramは保護者の閲覧があるかは不明。 ・コロナ感染症の影響で対外行事は見合わせた。Instagramや学校案内の発送、ポスター貼付（100枚）を行った。Instagramは29回投稿した。地域の社会福祉 ・第5次カリキュラム改正を見据えて中長期計画に反映してい	・保護者に対しては日々の活動はInstagramを閲覧して頂けるよう、入学ORなどで紹介する。学習困難者に対しては継続して情報提供を行う。 ・Instagramはこまめにフォローを行い、繋がりを広げていく必要がある。学生の投稿以外にも学校からお知らせなどを投稿する。
1-2	関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。		2		
2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。		3		
2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3			
	<養成所の運営計画と将来構想>				



1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。		3	当該年度の計画について共有している。前年度の評価に基づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価委員会に全職員が参加しており、目的や評価方法を確している。</li> <li>評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、講師会議で公表し、意見を頂きながらカリキュラム運営や授業実践に活用している。また、ホームページで公表している。</li> <li>第5次カリキュラム改正に向</li> </ul>
	<自己点検・自己評価体制>	橋元・大川内・山田			
1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。		3		
1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。		3		
2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。		3		
2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。		3		
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。		3		

令和3年度

VI	入学	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	児玉・東園・中原	3	入学者選抜基準は学校管理マニュアルの入学試験判定基準に譲られており、判定の目安が決められているが、受験時の姿勢や調書内容を含めた将来性など総合的に検討し、入学者を選抜している。	令和3年度は4名の退学者がいた。入学者選抜についての妥当性の分析が課題のままである。分析・評価ができれば、入学試験判定基準の改訂も必要である。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。		2		

令和3年度

VII	卒業・就業・進学	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	児玉・東園・中原		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時の到達状況については、27期生から卒業時の到達度評価を用いている。</li> <li>卒業生の就業先との情報交換や調査の実施などは、母体病院など一部に限られている。</li> <li>卒業生の活動状況の把握や分析結果については、教育理念・教育目的・目標、授業展開への活用は出来ていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の働く場については、看護協会から3年次に説明をもらっているが、卒業生の活動状況を理念や目的・目標、授業展開までは活用出来ていないことから、把握方法や情報の管理方法について検討を行う必要がある。</li> </ul>
2-1	卒業時の到達状況を分析している。		3		
2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。		3		
2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。		3		
3-1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。		2		
3-2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。		2		
4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。		1		
4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。		1		

令和3年度

VIII	地域社会／国際交流	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<地域社会>	出口・玉利・中園		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、地域交流会の他に社会福祉協議会や阿久根市の協力を得て、ボランティア活動を実施し、地域貢献や地域活動への参加ができた。</li> <li>募金活動など地域貢献への参加は学生が主体的に実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで地域と積極的に関わる機会が少なかったが、社会福祉協議会を通し地域と関わる機会が増えた。今後も地域と交流できるよう感染症対策を考えながら企画していく必要がある。</li> </ul>
1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。		2		
1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。		2		
2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。		3		
2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。		3		
3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。		3		
3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		3		
	<国際交流>				
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3			
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	2			
3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1			
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1			

令和3年度

IX	研究	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	出口・玉利・中園	2	今年度はZOOMでの研修参加ができていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動を希望する場合は、学会入会や研究の研修参加を行い、研鑽する努力が必要である。</li> </ul>
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。		3	新カリキュラム準備に費やす時間が多く、自己研鑽の時間確保が困難であった。	
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。		1	研究に関する助言などの体制は整っているが、研究に価値を置くという視点で考えると、支援しあえる環境は現在のところない。	